

令和7年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	理数科キャリアデザインツアー
期 日	令和7年10月1日（水）～3日（金）
会 場	東京方面
対 象	理数科 2年生
目 的	（１）身近なものから最先端まで幅広い科学に触れ、興味・関心を持つことにより、科学の様々な分野に対する自分の考えをまとめる。 （２）興味を持った分野について探究活動を行い、その活動の中で生じた疑問点を、自分で解決していこうと努力する過程で、自ら学ぶ姿勢を身に付ける。 （３）研究者、卒業生との交流を通して、自己を客観的に見つめ、これまでの生き方を振り返るとともに、自分自身の進路や将来設計についての意識（キャリア意識）を向上させる。 （４）訪問先で得た知識や興味を、『課題研究』に生かすとともに、学習の高い動機づけとする。
内 容	[1日目]・希望進路別研修 A班 JAXA つくば宇宙センター B班 理化学研究所横浜キャンパス ・卒業生との懇談会 [2日目]・東京大学名誉教授 浅島 誠 様による特別講義 「最近の生命科学の現状と課題—発展している科学と今後について—」 ・班別企業訪問研修 [3日目]・国立科学博物館見学
  JAXA つくば宇宙センター  NMR ↓ ←クライオ電子顕微鏡 理化学研究所横浜キャンパス	
 浅島 誠 東京大学名誉教授による特別講義 	

感想など	・2人の卒業生と話し合った。1人目の方はプラス思考に基づいた受験勉強、大学生活を送っており、その結果全ての物事を成功させてきたという。大学に進むのは学歴や名誉のためではなく、外部からの圧力に負けないで自分がやりたいことをやって楽しむため、と語ってくだった。2人目の方は医学部志望から、自分が関心を持っていた日本語を深掘りするために文転したという。お二方は周りに囚われない自分らしい生き方を見つけていた。否定的に考えてしまう癖があって、意志が弱い私も、自分が楽しいと思えるようなことを、妥協せずに追求していこうと思った。 ・卒業生の最後の話がとても印象的だった。「勉強のことを考えていられるのは高校生のうち」は、最近たるんでいた自分の心に刺さるものがあった。大学生になってから後悔することを少しでも減らしていこうと思った。またポジティブな思考は、最近模試や考査などで悪い結果が返ってきた時モチベーションが下がってしまう自分にここ数ヶ月悩んでいたから、むしろ伸びしろしかない！！と思えるぐらいポジティブに行こうと思った。大学生になったらバイトを沢山して、様々なコミュニティーに参加して、人々に関わる技術を磨いて行こうと思った。 ・浅島先生の今日の講義では特に印象に残ったことが2つあった。1つ目は科学技術を発展させていくスピードだ。浅島先生が大発見をしてから40年近く経ったが、そこからのスライドに列記された医療技術への活用の数々を見て、これから人類がどのようにこの技術を発展させていくか期待が湧いてくるとともに、間違ったことに使うと大変なことになるという不安も湧いてきた。2つ目は研究者の覚悟だ。60年間も多くの科学者が壁にぶつかっている難題に立ち向かっていく研究者の勇気はカッコいいと思えるものがあったし、自分もそれぐらいモチベーションが持てる仕事につきたいと思った。 ・浅島先生の講演を通じて、ヒトはまだ地球に発現してからわずかな歴史しか刻んでないことを、広い視点から感じることができました。再生科学の発展は医療の可能性を大きく広げると思う反面、生命との向き合い方や倫理観などが問われる難しい問題だなと思い、自分の中で意見がうまくまとまりませんでした。人工知能が発達していく中で、私たちヒトにしかできないこと、能力を伸ばすための活動に参加していきたいです。また、後半1時間は対話型の講演だったので、自分の頭で考えながら話を聞くことができました。 ・3日間を通して、就きたい職業や関わりたい分野を考える自分の軸を持つ上でのヒントをたくさん見つけることができました。また、いつもは学校でしか会わない仲間と長い時間を一緒に過ごすことで、集団生活のルールを改めて再確認できたと同時に、今までよりもっと仲良くなりました。今回学んだことを学んで終わりにするのではなく、大学調べや進路決め、そして普段の生活に活かせるように、行動に移していきたいです。2泊3日という短い時間を、楽しみながら将来を考える有意義な時間にすることができました！ ・この三日間は想像以上に濃密な「仕事」に対するイメージが覆されてしまうような有意義な時間だった。特に為になったと感じたのは卒業生との交流会と企業見学だ。学んだ内容は「ポジティブ思考」と「仕事は想像以上に面白い」ということだ。最近小さいことでメンタルをやられてしまうことが多々あったから、大学生の先輩の愛のある話を聞いてハッとさせられた。また長高卒業生の現在日鉄で働いている先輩の話では、目をキラキラさせながら魅力を自分たちに伝えている様子が非常に印象的だった。この経験を忘れずに残りの高校生活を過ごしていきたい。
------	---

